

だい きやまとしたぶんかきょうせいかいぎ だい かいかいぎ ろく ようやく  
第4期大和市多文化共生会議 第9回会議録(要約)

にちじ ねん がつ か ど  
日時: 2016年12月10日(土)14:00~16:10

ばしょ やまと し やくしよぶんちようしや かいかいぎしつ  
場所: 大和市役所分庁舎3階会議室

しゅっせき いいん いしま いとうもとみ いのみさと くするみこ しょうじ  
出席: 委員(石間フロルデリサ、伊藤素美、猪野美里、楠瑠美子、東海林まりえ、ハゲ  
イ パトリシア、府川貴恒) / 大和市国際・男女共同参画課(篠崎、水尾) / 公  
えきぎだんほうじんやまと しこくさい かきょうかい さかい たなか こにし いしかわ いじょう めい  
益財団法人大和市国際化協会(酒井、田中、小西、石川) 以上 13名

けっせき いいん しらとりせつろう せやまり たのいさいな けいしよりやく  
欠席: 委員(ウプレティ マトリカ、白鳥節郎、瀬谷麻里、田野井咲奈)(敬称略)

ぜんかいかいぎ ふ かえ  
1 前回国議の振り返り

ぜんかいかいぎ ふじさわ しがいこくじん し じんかいぎ つと ちえよんそんし ふじさわ  
前回国議は、藤沢市外国人市民会議でコーディネーターを務める崔英善氏から藤沢  
しがいこくじん し じんかいぎ とく たぶんかきょうせい かつどう かか はなし  
市外国人市民会議での取り組みや多文化共生の活動への関わりなどについて話を  
うかがった。あらためて崔さんのお話をかんたんに振り返った。

じ むきょく しゅくだい ほうこく  
2 事務局から宿題の報告

じ むきょく しら ひつよう ず かつよう せつめい おこな  
事務局から「なぜ調べることが必要なのか」イメージ図を活用しながら説明を行った  
あと、じ むきょく わ ふ しゅくだい ほうこく  
後、事務局に割り振られていた宿題を報告した。

しら ひつよう  
なぜ調べることが必要なのか

○これまでの会議は、委員がそれぞれの立場から意見を述べるにとどまっており、この  
かたち はな あ つづ じつたい ふ いけん  
形で話し合いを続けていても実態を踏まえた意見ではないため、なかなか課題を解  
けつ とく  
決する取り組みにつながらない。

○委員が(自分のできる範囲で)それぞれ「調べる」ことによって、実態を把握する。個人  
いけん じぶん はんい しら じつたい はあく こじん  
の考えを述べて問題点を指摘するのではなく、「実際はこうなっている」という現状を  
かんが の もんだいてん してき じつさい げんじよう  
まず把握する。その上で話し合う会議にしていきたい。

○実態を踏まえた話し合いをすることで、解決したい課題の原因は何か、見えていない  
じつたい ふ はな あ かいけつ かだい げんいん なに み  
課題を含めて課題の全体像を委員のみなさんと共有したい。そこから課題を解決す  
かだい ふく かだい ぜんたいぞう いいん きょうゆう  
る取り組みを考えていく。

じ むきょく てら こ や じつたい がいこく こ さん かじようきょう  
●事務局「寺子屋の実態と外国につながる子どもたちの参加状況」

おおのはらしよう やなぎばししよう てら こ や けんがく い しら  
…大野原小と柳橋小の寺子屋に見学に行き調べた。

さん かしやすう い か とお しな い こう さん かしやすう へいきん やく めい  
○参加者数は以下の通り。市内19校の参加者数の平均は約50名。

おおのはらしよう めい がいこく こ めい  
大野原小46名(そのうち、外国につながる子ども 6名)

やなぎばししよう めい がいこく こ めい  
柳橋小49名(そのうち、外国につながる子ども 7名)

○外国につながる子どもは学習支援員などにほめられることで自信が付き、学習意欲の向上につながっているのではないか。

○外国につながる子どものうち、70%以上の子どもは寺子屋に参加していない。補習クラスを開催するには、参加者を増やすために外国人の保護者の理解や学校の先生とのつながりなどが必要になってくるかもしれない。

(質疑)

○質問: 実際の寺子屋は授業のようなスタイルで勉強しているのか?

○応答: 子どもが好きな時間に来て、宿題に取り組んでいる様子だった。すぐに宿題を終わらせて帰る子もいた。

○質問: 約50名の子どもに対して、先生(支援者)は何人くらい?

○応答: コーディネーターが1名、学習支援員が3名いる。一人で勉強できる子もいれば、先生と付きっきりで勉強する子もいた。

### 3 委員から宿題の報告

委員から質疑応答を含め、ひとり10分ずつ時間をとって宿題の報告を行った。調べたことを通じて、「あったらいいな=多文化共生会議でやる補習クラス」が「課題=外国につながる子どもの日本語力不足」を解決するのに(A)役に立つか、(B)役に立たないか、理由を含めて報告した。(報告の詳細は別紙の通り)

<課題>  
外国につながる子どもの日本語力が不足しているため、学校の授業についていけない

<あったらいいな>  
学校の放課後に外国につながる子どもたちを対象とした補習クラスを開いてみてはどうか

### ●府川委員「寺子屋のしくみについて」

…インターネットなどを使って寺子屋のしくみを調べた。

○寺子屋はいい制度だと思うが、学校と連携がとれているか、子どもたちのニーズに合っているか、疑問に思った。

○外国につながる子どもたちはそれぞれに事情を抱えているもの。寺子屋のような補習クラスは合わない(子どもたちへの適切な支援にならない)のではないか。

○外国につながる子が抱える事情がそれぞれ違うことをわれわれが理解し、その子にと

ってどうい<sup>し えん ひつよう</sup>う支援が必要<sup>ふか む あ</sup>なのか、深く向<sup>う え</sup>き合った上でサポ<sup>こんぼん</sup>ートしていかなければ、根本<sup>てき し えん</sup>的な支援にならないのではないだろうか。

(質疑)

○質問: 通<sup>しつもん つうがく</sup>学している学校<sup>がっこう い がい</sup>以外の寺子屋<sup>てら こ や</sup>に参加<sup>さん か</sup>することはできるか?

○応答: 自分<sup>おうとう</sup>が通<sup>じぶん かよ</sup>っている学校<sup>がっこう</sup>の寺子屋<sup>てら こ や</sup>に行く<sup>い</sup>のがほとんどだ<sup>おも</sup>と思うが…(調<sup>しら</sup>べてみないと<sup>い</sup>とわからない)。

○質問: 寺子屋<sup>しつもん てら こ や</sup>の先生<sup>せんせい</sup>の人件費<sup>じんけん ひ</sup>や教材<sup>きょうざい</sup>などの運営費用<sup>うんえい ひよう</sup>は大和<sup>やまと</sup>市<sup>し</sup>が負担<sup>ふたん</sup>しているのだろうか?

○応答: 寺子屋<sup>おうとう てら こ や</sup>は学校<sup>がっこう</sup>でできるところ<sup>むりよう</sup>(無<sup>おも</sup>料)がメリッ<sup>おも</sup>トだと思う。

費用<sup>ひよう</sup>については調<sup>しら</sup>べた方<sup>ほう</sup>がいいと思うが、わたしが知<sup>し</sup>る限り<sup>かぎ</sup>では退<sup>たいしよく</sup>職<sup>きょういん</sup>された教員<sup>てら</sup>が寺子屋<sup>こ や</sup>のコーディネーター<sup>きゆうりよう</sup>をしている。給料<sup>で</sup>が出て<sup>ゆうしよく</sup>いるのか(有<sup>ゆうしよく</sup>償) 、ボランティア<sup>ゆうしよく</sup>なのか(無<sup>むしよく</sup>償)は聞<sup>き</sup>けなかつたので調<sup>しら</sup>べてみる必要<sup>ひつよう</sup>があると思う。

### ●東海林委員「大和<sup>しやまと</sup>市の学<sup>がくしゆ</sup>習<sup>し えん</sup>支援<sup>し えん</sup>のしくみについて」

…NPO法人<sup>ほうじんきぎよく</sup>教育支援<sup>し えん</sup>グループEd.ベンチャー<sup>エド</sup>が運<sup>うんえい</sup>営<sup>けん</sup>する「エステレー<sup>けん</sup>ジャハッピー」に見<sup>けん</sup>学<sup>けん</sup>にうかがい、日本<sup>にほん</sup>語<sup>ご</sup>教室<sup>きょうしつ</sup>「らんど<sup>らいと</sup>せる」にアンケート<sup>かいたう</sup>で回<sup>かい</sup>答<sup>とう</sup>をもら<sup>ら</sup>った。

○学<sup>がくしゆ</sup>習<sup>ないよう</sup>内容<sup>にほんご</sup>や日本<sup>のうりよく</sup>語<sup>のうりよく</sup>の能力<sup>し えん</sup>がさまざま<sup>ふくざつ</sup>なので、支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>が複<sup>ふく</sup>雑<sup>ざつ</sup>になっ<sup>な</sup>っている。さら<sup>さら</sup>に日本<sup>にほん</sup>語<sup>ご</sup>だけ<sup>だけ</sup>ではな<sup>な</sup>く、発<sup>はつ</sup>達<sup>たつ</sup>や家<sup>か</sup>庭<sup>てい</sup>の問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>も含<sup>ふく</sup>めた支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>が必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>。

○支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>者<sup>しや</sup>が足<sup>た</sup>りな<sup>ない</sup>い。

○外<sup>がい</sup>国<sup>こく</sup>につな<sup>つ</sup>がる子<sup>こ</sup>ども<sup>ども</sup>の「日本<sup>にほん</sup>語<sup>ご</sup>力<sup>りよく</sup>の不<sup>ふ</sup>足<sup>そく</sup>」のみ<sup>し えん</sup>を支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>する<sup>する</sup>のではな<sup>な</sup>く、心<sup>しん</sup>理<sup>り</sup>面<sup>めん</sup>や学<sup>がく</sup>習<sup>しゆ</sup>面<sup>めん</sup>など<sup>など</sup>を含<sup>ふく</sup>めた一<sup>い</sup>体<sup>たい</sup>的<sup>てき</sup>な支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>が必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>。

○学<sup>がっこう</sup>校<sup>こう</sup>における個<sup>こ</sup>別<sup>べつ</sup>指<sup>し</sup>導<sup>どう</sup>を充<sup>じゆうじつ</sup>実<sup>じつ</sup>さ<sup>じつ</sup>せる必要<sup>ひつよう</sup>がある。補<sup>ほ</sup>習<sup>しゆ</sup>ク<sup>く</sup>ラ<sup>ら</sup>ス<sup>ら</sup>でも学<sup>がっこう</sup>校<sup>こう</sup>の先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>と<sup>と</sup>の連<sup>れん</sup>携<sup>けい</sup>がある<sup>よ</sup>と良<sup>よい</sup>い。

○あるべき支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>は複<sup>ふく</sup>雑<sup>ざつ</sup>だが、補<sup>ほ</sup>習<sup>しゆ</sup>ク<sup>く</sup>ラ<sup>ら</sup>ス<sup>ら</sup>の機<sup>き</sup>会<sup>かい</sup>があ<sup>あ</sup>った方<sup>ほう</sup>が良<sup>よい</sup>いと思<sup>おも</sup>う。学<sup>がく</sup>習<sup>しゆ</sup>だけ<sup>だけ</sup>でな<sup>な</sup>く、い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>な方<sup>かた</sup>と<sup>と</sup>の関<sup>かか</sup>わり<sup>わり</sup>、対<sup>たい</sup>話<sup>わ</sup>を通<sup>つう</sup>じて学<sup>がく</sup>習<sup>しゆ</sup>へ<sup>へ</sup>の意<sup>い</sup>欲<sup>よく</sup>を持<sup>も</sup>つことにつな<sup>つ</sup>がると思<sup>おも</sup>う。

(質疑)

○質問: 支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>者<sup>しや</sup>とし<sup>し</sup>て<sup>て</sup>の役<sup>やく</sup>割<sup>わり</sup>のとらえ方<sup>かた</sup>の違<sup>ちが</sup>いとは?

○応答: 日本<sup>おうとう</sup>人<sup>にほんじん</sup>で自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>が役<sup>やく</sup>に立<sup>た</sup>つと思<sup>おも</sup>って支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>して<sup>して</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>る方<sup>かた</sup>がいた<sup>いた</sup>が、子<sup>こ</sup>ども<sup>ども</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>は日本<sup>にほんご</sup>語<sup>ご</sup>による学<sup>がく</sup>習<sup>しゆ</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>を必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>とし<sup>して</sup>ている。英<sup>えいご</sup>語<sup>ご</sup>が話<sup>はな</sup>せること<sup>こと</sup>が支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>につな<sup>つ</sup>がるわ<sup>わ</sup>け<sup>け</sup>ではな<sup>ない</sup>い。

○質問: 対<sup>しつもん</sup>話<sup>たいわ</sup>とは、支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>者<sup>しや</sup>と子<sup>こ</sup>ども<sup>ども</sup>が対<sup>たいわ</sup>話<sup>わ</sup>する<sup>する</sup>ことか?

○応答: 外<sup>おうとう</sup>国<sup>がいこく</sup>につな<sup>つ</sup>がる子<sup>こ</sup>ども<sup>ども</sup>は、学<sup>がっこう</sup>校<sup>こう</sup>のク<sup>く</sup>ラ<sup>ら</sup>ス<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>だけ<sup>だけ</sup>で不<sup>ふ</sup>安<sup>あん</sup>を感<sup>かん</sup>じ<sup>じ</sup>る<sup>る</sup>こと<sup>こと</sup>もあ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ので<sup>ので</sup>はな<sup>ない</sup>いか。ボランティア<sup>かか</sup>と関<sup>も</sup>わり<sup>わり</sup>を持<sup>も</sup>つこと<sup>こと</sup>によ<sup>よ</sup>って存<sup>そんざい</sup>在<sup>ざい</sup>感<sup>かん</sup>をつか<sup>つか</sup>んだ<sup>だ</sup>り、勉<sup>べん</sup>強<sup>きやう</sup>して<sup>して</sup>み<sup>み</sup>よ

うという気持ちになったりするのではないかと思う。

○質問: 母語を使えて、元教員などから支援を受けられる環境はいいと思った。学校との連携や心理面での支援ができればもっと充実するのではないか。

○応答: 学習支援クラスの最後の方では、英語や母語の時間を設けているようだ。そうした同じ母語を持つ子ども同士が集まる場を提供する意味もこうした学習支援クラスにはあるのだと思った。学校やクラスが違えば、そうした話もできないし、一人だと不安もある。学習だけでなく、友だちと話をする時間があれば精神的な安定をもたらすと思う。

### ●楠委員「親へのインタビュー」

…外国人の保護者6人に寺子屋や子どもの学習のことなどを質問して、回答を得た。

○親は塾を頼りにしているが、塾に行かせるお金がない親もいる。

○親は日本語がわからないので、宿題・勉強の確認ができない。子どもにまかせきりになっている。

○勉強は大切ではないと考えている親もいる。

○日本の学校の先生は厳しくないと思う親がいる。

○漢字の勉強が不足している。(漢字の意味を理解していない)

○家庭の中のコミュニケーションが母語なので語彙力、読解力がない。

○日常会話はできるが、授業で使うことばは難しい。授業の内容を理解できないので、学習が遅れてしまう。

○塾は、ただ繰り返しの学習をするだけで、本人の学力にあった細かい指導はしてもらえない。

○本当に理解してやった宿題なのか、ただやった宿題なのかわからない。

○日本生まれの子どもたちもやはり語彙などが不足している。日本生まれだから大丈夫、ということはない。

○寺子屋もそうだが、子どもがただ宿題をやるのか、理解して宿題をやるかはわからない。本当に理解して宿題をやっているのか、きちんと確認したり、もっと詳しく説明したりする取り組みが必要。

(質疑)

○質問: インタビューした保護者は大和市に住んでいる方か?

○応答: すべて大和市に住んでいて、子どもは日本生まれ。ただし、家庭では母語でのコミュニケーションになるので、日本で生まれたからとか、何歳で日本に来たか、という問題ではないと思う。

○質問:外国人の保護者にとって、塾は良いものだという認識はあるのか？寺子屋は無料だが、塾のようにお金をかけた分だけ効果があると思っているのだろうか？

○応答:塾は良いという認識は持っていると思う。お金をかけて塾に行っているので細かく見てくれていると思っているかもしれないが、塾に行かせていても勉強(授業)にはついていけない、と答える保護者もいた。

○質問:塾は外国につながる子どもを指導する「ノウハウ」を持っているのだろうか？

○応答:アンケートとは関係ないが、塾では日本人と同じように勉強するだけで、わからないことをいねいにフォローしてくれるわけではないので、塾に行かせたくないと考えている保護者が7割以上いると思っている。お金をかけても意味はないと言う保護者を今までたくさん見てきた。もっといねいに指導してくれるところはないか、と保護者は考えている。

○質問:「勉強は大切ではない。日本語ができればそれで良い」という保護者の真意は何だろうか？

○応答:日本語で日常的な会話ができれば生活はできるので、勉強ができる、できないはそれほど問題ではないという意味ではないか。

## ●石間委員「親へのインタビュー」

…外国人の保護者8人に寺子屋や子どもの学習のことなどを質問して、回答を得た。

○高校受験の仕組みがわからない。

○塾の送迎にかかる手間を賄えない。

○塾は、わからないことに対応してくれない。

○ボランティアの日本語教室で教科も教えてほしい。

○母国語や英語も教えてほしい。

○宿題が多すぎる。

○父親の帰りが遅く、勉強を見ることも母親にかかってくるが、外国人の母親は見てあげられない。

○寺子屋のことやその他何でも、説明が足りない。外国人の保護者は、聞いても理解できないことがある。

○保護者は、国際級＝特別支援級と思っているからなのか、国際級ではなく、普通級に行ってもらいたいと思っているが、一方で先生は国際級が必要だと思っている。保護者の理解不足で行き違いが生じているので、詳しい説明がもっと必要。

○外国人の保護者の中には寺子屋を知らない人が多い。寺子屋について理解することができれば、寺子屋は効果がある。

## ●パトリシア委員「子へのインタビュー」

…外国につながる子ども10人に寺子屋や勉強のことなどを質問して、回答を得た。

○子どもに、勉強のことを何も言わない親もいる。

○多くの子どもは、宿題や勉強のことについて、相談できる場を持たない。

○両親が日本語を話さないので、子どもを助けることができない。

(質疑)

○質問: 寺子屋を知っている子どもは、どこから寺子屋のことを知ったのだろうか？

○応答: 子どもが寺子屋を知っていた家族は、保護者が日本の学校に通った経験がある。

## ●猪野委員「中学生・元教員などへのインタビューなど」

…中学生や元教員への聞き取りのほか、他市の事例などを読んで調べた。

○中学校で放課後に個別に学習支援をしている。国際級はせまい部屋で文献もあまりない。個別の学習支援をする部屋は何もなく、机といすがあるだけ。

○3人の中学生にインタビューしたところ、どの生徒も中学生になってから日本に来たことで、十分に日本語が話せるレベルではない。もっと勉強したいと思っているが、なかなか時間がない。

○(高校受験が迫っているので)会話がうまくできないくらい日本語レベルであっても、日本人と同じように日本語で学習してほしい。

○ある生徒(外国につながる子ども)は部活動に参加していたが、日本語ができないために満足な活動ができず、結局辞めてしまった。

○中学生で来日した場合、小学生で来日した場合と比べて問題がたいへん多い。日本語の勉強に加えて、教科の勉強も必要になってくる。生徒から「なんでこんなに勉強する必要があるのか」と言われることもある。

○中学生を指導する場合、ボランティアでは専門性が足りないことがあり、教科学習については、ある程度の専門性が必要になる。また、教えた子どもが間違いをおかすことがないように指導する側にも責任を持たなくてはならない。

○元中学校教員にもインタビューを行ったが、「無償では教える気がない」、「非常勤なら(身分が保証されれば)やる」など積極的に教えようとする方はいなかった。

○そのほか、浜松市の事例や県立国際言語文化アカデミアの書籍を読んだ。他市の事例で参考になることもあったが、大和にうまく当てはまるのかわからない。他市では、利用者がお金を払ったり、支援者に謝礼を渡したりしている。

- また、担任の先生との連携がないため、ボランティア(支援者)がどこまで、どうやって  
おし  
教えたらいいのか、わからない。
- 中学生は日本語ができない、教科の学習ができないといった問題のほかにも、心の  
もんだい おお そうだん い ほご もんだい こころ  
問題が大きい。相談すると言っても、母語でコミュニケーションができて、中学生との  
しんらいかんけい きず ひと そうだん  
信頼関係が築ける人でないとなかなか相談することができない。相談を受けても、学  
こう  
校とのつながりがなければ解決に結び付けることがむずかしい。
- (悩みと言っても恋愛など大した問題ではないかもしれないが)本人にとってはちょっと  
なや い れんあい たい もんだい ほんにん  
相談する人がいてほしいのが本音。そうした専門的な知識を持っていたり、カウンセリ  
そうだん ひと ほんね そうせんもんてき ちしき も  
ングを受けたりできる場が必要。
- 中学生にもなると、ボランティアとはいえ相手を選ぶようになる。ボランティアが高齢の  
ちゅうがくせい  
方で、(無意識に)つばを吐きながら指導するような方だと学習支援に行きたくなくなっ  
かた む いしき は しどう かた がくしゅうしえん い  
てしまう。
- 人員の確保などむずかしい面があるが、補習クラスはないよりはあった方がいいと思う。  
じんいん かくほ めん ほしゅう ほう おも  
ただし、現状のままではあまり役に立たないかもしれない。  
ただし げんじょう あまり やく た  
○日本語が話せない友人ができない。  
にほんご はな ゆうじん

●伊藤委員「日本語や学校の勉強が大変な外国につながる子どもの学習支援に必要なものは何か」

- …NPO法人青少年自立支援センターの田中宝紀さんがクラウドファンディングの(お金  
ほうじんせいしゅうねん じりつ しえん たなか い き  
を集める)ために書いた文章を読み、学習支援に必要なことをまとめた。  
あつ か ぶんしょう よ がくしゅうしえん ひつよう  
○(1)お金。子どもたちを教える部屋や教科書など、いろいろお金が必要になる。また、  
かね こ おし へ や きょうかしょ かね ひつよう  
子どもは無料で勉強できる教室にしたい。  
こ むりよう べんきょう きょうしつ  
○(2)良い教科書。日本語の勉強のため、中学生に対して小学生の教科書を使うとプ  
よ きょうかしょ にほんご べんきょう ちゅうがくせい たい しょうがくせい きょうかしょ つか  
ライドを傷つけてしまうことがある。買うことのできる日本語テキストは「忘年会」「社長さ  
ん」など会社に関する単語が出てくるなど、大人向けの内容になっている。外国につな  
かいしゃ かん たんご で おとな む ないよう がいこく  
がる子どもに適した教科書がほしい。  
こ てき きょうかしょ  
○(3)子どもたちの勉強したい気持ち。大人や留学生は本人が日本に来たいと思って  
こ べんきょう きも おとな りゅうがくせい ほんにん にほん おも  
日本に来ている。でも、子どもは日本に来たいと思って来たわけではない。友だちと  
にほん き こ にほん き おも き とも  
まは話せなかったり、学校の勉強もたいへんだったりするので、日本語を勉強したいと  
はな がっこう べんきょう  
思えない。子どもたちに勉強したいと思わせるようにサポートする(寄り添う)必要があ  
おも こ べんきょう おも よ そ ひつよう  
る。
- (4)子どもの成長を助ける。外国につながる子どもたちに日本語や勉強を教えるだけ  
こ せいちょう たす がいこく こ にほんご べんきょう おし  
では足りない。日本語は勉強するときだけでなく、自分の考えを伝えたり、自分の気  
た にほんご べんきょう じぶん かんが つた じぶん き

持ちを表現したり、相手の気持ちを理解したりする上でも必要。小学生から大学生に至るまでの長い期間にわたって子どもを見守って、成長を助けることが大事。

○自分たちで補習クラスをやろうとしても(1)～(4)で指摘した部分がわたしたちには不足している。すでに学習支援を行っている団体が抱える悩みを解決することがわたしたちにできることなのではないか。

○この多文化共生会議で新たに補習クラスをやる必要性は感じない。わたしたちの存在が役に立たないわけではなく、新たな補習クラスを実施するよりも、すでに外国につながる子どもたちの学習支援に取り組んでいる団体をサポートした方がよい。

#### 4 その他

(次回会議について)

○事務局：見えている課題は「外国につながる子どもたちの日本語力が不足しているため、学校の授業についていけない」だったわけだが、今日みなさんから報告があったおかげで、見えていない課題も少し見えてきたところではないだろうか。

○大和市：すでに学習支援を行っている団体が困りごとを抱えていることもわかった。わたしたちは(子どもたちに直接ではなく)団体に対しても支援できるのだと思う。

○事務局：課題はあくまで一つであって、今まで出た意見は課題の原因なので、課題と原因は区別して考える必要がある。今日の会議で課題を解決するイメージがみなさんの中で共有できたなら新しい課題を取り上げてもいいのかもしれない。もしくは、この学習支援に関する課題を追求していくか、どちらかになると思う。

○委員：この課題を追求することでどうなるのか？

○事務局：この会議は、最終的には課題を解決するための行動をすることにある。課題を掘り起こして調べたりしながら、自分たちでできることを見つけようというもの。

○委員：課題を掘り下げることで原因なり、新たな課題なりがまた出てくるものだと思うが、果たしてわたしたちが取り組むべき課題はこれ(子どもたちの日本語力不足)でいいのだろうか？

○事務局：それはみなさんで話し合っ決めて決める必要がある。

○委員：せっかくみんなで調べたので、見えていない課題をはっきりさせてから、もう一回くらいは学習支援のことを続けて話し合っでもいいのではないだろうか。

○委員：具体的に何をするのか。

○事務局：例えば、外国人の保護者が(寺子屋の)情報を知らないことは他の(子どもたちの日本語力不足以外の)課題の原因でもあったりするのは。いくつかの課題を掘り下げることで共通の原因を見つけ出すこともできるし、ひとつの課題を深掘りしていくこ

とで、ある解決案を見つけ出すこともできる。

- 委員：来月の会議は何をするのか。
- 委員：見えていない課題がはっきりしていないので、もう一度みなさんで課題が見えるように整理したらどうか。
- 委員：保護者が抱えていること、子どもたちの周辺(学習以外の問題)のことなど、もう一度整理した方がいいかなと思う。
- 委員：ひとつ気になるのは、日本語力不足だけでなく、子どもの心理的な問題や心のケアも同時に大事なことなのかなと思う。
- 委員：みんなが前向きになるために、他市の事例でいいところなどを紹介してみてもどうか。
- 委員：メーリングリストがあるので、委員からメールで他市の事例などを情報提供してもかまわない。
- 委員：せっかく今日みなさんから報告があったので、この報告の結果をまとめてみたい。
- 事務局：みなさんからの報告を目に見える形でグループに分けたりする作業をしたらいいのかもしれない。
- 委員：課題に対する解決方法も目に見えていけばいいのではないか。
- 委員：委員ができることに関しては、調べることができる委員が調べたらいいのだと思う。
- 事務局：まずは今日の会議を踏まえた課題の整理が必要になってくる。
- 委員：その上で、わかったことがあったら、委員から報告する時間をとればよい。
- 事務局：次回の会議は、今日の報告を踏まえて課題を整理した上で話し合う。そこで委員から他市の事例などで具体的な解決策などがあればメーリングリストで情報提供したり、次回会議の場で報告したりする。

(次回の日程について)

次回の会議は 1月14日(土)14:00～、同じ市役所分庁舎2階会議室で行う。

いじょう  
以上